

公民館と多様な地域主体の協働による消費者教育

平成28年1月25日
 消費者教育フェスタin大分 発表資料
 石川県七尾市能登島公民館 主事 谷内玲香

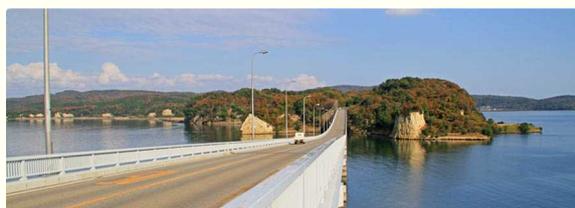


■ 消費者教育の体系イメージマップ(一部抜粋)

重点領域	幼児期	小学生期	中学生期	高校生期	成人期		
					特に若者	成人一般	特に高齢者
各期の特徴	様々な気づきの体験を通じて、家族や身の回りの物事に興心をもち、それを取り入れる時期	主体的な行動、社会や環境への興味を通して、消費者としての素地の形成が望まれる時期	行動の範囲が広がり、権利と責任を理解し、トラブル解決方法の理解が望まれる時期	生涯を見通した生活の管理や計画の重要性、社会的責任を理解し、主体的な判断が望まれる時期	生活において自立を進め、消費生活のスタイルや価値観を確立し自らの行動を始める時期	精神的、経済的に自立し、消費者市民社会の構築に、様々な人々と協働し取り組む時期	周囲の支援を受けつつも人生での豊富な経験や知識を消費者市民社会構築に活かす時期
消費者市民社会の構築	消費がもつ影響力の理解 おつかいや買い物に関心を持とう	消費をめぐる物と金銭の流れを考えよう	消費者の行動が環境や経済に与える影響を考えよう	生産・流通・消費・廃棄が環境、経済や社会に与える影響を考えよう	生産・流通・消費・廃棄が環境、経済、社会に与える影響を考える習慣を身に付けよう	生産・流通・消費・廃棄が環境、経済、社会に与える影響に配慮して行動しよう	消費者の行動が環境、経済、社会に与える影響に配慮することの大切さを伝えよう
	持続可能な消費の実践 身の回りのものを大切にしよう	自分の生活と身近な環境とのかかわりに気づき、物の使い方を工夫しよう	消費生活が環境に与える影響を考え、環境に配慮した生活を実践しよう	持続可能な社会を目指して、ライフスタイルを考えよう	持続可能な社会を目指したライフスタイルを撮そう	持続可能な社会を目指したライフスタイルを実践しよう	持続可能な社会に役立つライフスタイルについて伝えよう
	消費者の参画・協働 協力することの大切さを知ろう	身近な消費者問題に目を向けよう	身近な消費者問題及び社会課題の解決や、公正な社会の形成について考えよう	身近な消費者問題及び社会課題の解決や、公正な社会の形成に協働して取り組むことの重要性を理解しよう	消費者問題その他の社会課題の解決や、公正な社会の形成に向けた行動の場を広げよう	地域や職場で協働して消費者問題その他の社会課題を解決し、公正な社会をつくらう	支え合いながら協働して消費者問題その他の社会課題を解決し、公正な社会をつくらう

消費者教育ポータルサイトより
<http://www.caa.go.jp/kportal/consumer/about.html>

■ 地域の概要（石川県七尾市 能登島地区）



- 合併前は一島一町で、地縁コミュニティが濃く残る地域
- 公民館1館（自治公民館なし）
- 能登島大橋、中能登農道橋で本州と繋がる
- 主産業 観光・漁業・農業

項目	数
人口	2,824人
世帯数	1,020世帯
高齢化率	約34%
小学校（生徒数）	1校（124人）

■ 取り組みの背景

【地域課題】

- ・持続可能な地域運営のための身近なエネルギー資源の見直し
- ・消費生活のスタイルや価値観の転換
- ・愛郷心を育む子どもたちの地域学習に地域も関わる
- ・活動の中心となる壮年世代の人材発掘や育成

公民館・地域・学校が
連携して取り組む必要性

■ 小学生対象の消費者教育活動

【目的】 持続可能な地域運営について知ってもらう
身近なエネルギー資源の見直し
愛郷心を育む子どもたちの環境学習に地域の大人も関わる

【内容】 身近なエネルギー資源について、昔と今の生活を比較しながら現地（山）を見て学んでもらう。

能登島小学校6年生 13名を対象 環境学習の時間（50分×2）

1時間目 地域の方を講師に「生活の変化に伴うエネルギーと山の変容について」

2時間目 石川県立大学 山下先生「荒れた山と整備された山の違いについて」

+ 地域の方を講師に 薪割り、薪ストーブ体験

【進め方】

前年度の2月頃小学校に、連携した環境学習事業を呼びかけ

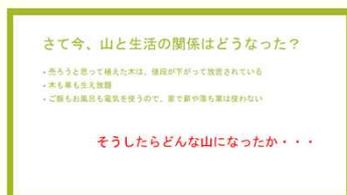
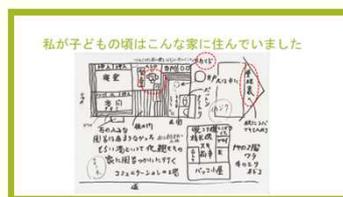
新年度、校長、担任教諭と内容についての打ち合わせを3回

子ども達が理解しやすく大人の学びも深められる方向で調整し、上記の内容に。



■ 生活の変化に伴うエネルギーと山の変容について

講師：松茸山再生研究会 藤井政治 / 能登島公民館館長 坂本 隆



■ 荒れた山と整備された山の違いについて

講師：石川県立大学 講師 山下良平先生

- ・子ども達に担任による事前授業とアンケートを実施し、その上で専門家である大学の先生への質問を挙げてもらう。
- ・実際に山に移動し、質問に答えながら学ぶ
- ・これまで公民館の講座に参加してきた地域の方も参加し、薪割り・薪ストーブ体験を行った。
- ・子ども達から保護者へお便り発行「環境だより」



里山って何？いい山とは？

さてここで、専門家にバトンタッチします。石川県立大学より、地元中島出身の山下良平先生に講師に来ていただいて、6年生の疑問に答えながら「里山って何？いい山とは？」について分かりやすくお話しして頂きました。

「里山」というのは、山の近くに人が住んでいて、山と人が一緒に暮らしている状態を言います。前回のお話にあったと思いますが、山の本を使ったり、山菜やコケを採ってきたり、昔の人は山から色々な恵みをもたないが暮らしていました。そんな風に「住どよ」と人と暮らした山が「里山」ということになりました。それを保つために、山菜やコケなども全部採らない、これだけは次の年のために置いておくこととなる。そんなちよどい塩梅がわかるのが里山に暮らしているということです。

「ちよどい」が大事

しかし、今は山に行くともなくなり、山との距離が広がってきています。さっき「里山」と言うのは山と人が一緒に暮らしていること」と言いましたが、そこから離れると「ちよどい」がいかが分かんなくなってきます。皆さんの質問に「今の熊鷹島の山はいい山か、悪い山か？」というのがありました。

たが、いいか悪いかはその時に寄るのですが、今の話でいくと「ちよどい」よりちょっと荒れている状態なのかなと思います。もうちよどい山を築かないといかないところですか。

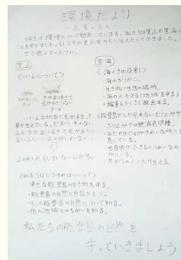


他の質問に「山の環境を守るにはどうしたいですか？」というのもありました。皆さん、どう思いますか？

「生活の役に立つ」「汚くならなければいい」という意見が上がりました。

なるほど。ではスポーツしてる人には道具の手入れが成績に繋がるから、大事にして手入れするよね？使ったら拭くとか。山もそれと同じことなんです。山を守るという時に、山は大事なものと分かってないといけない。皆さん熊鷹の勉強もしたということなので、山と人がつながっていることや、山の整備がなぜ大事なのかが分かったと思います。山をぼうぼうに荒らしているとか、イタシヤや熊も出てきます。このまま放っておいたら本当に荒れた山になってしまうので、皆さんも貢献できるあり方を考えてほしいなと思います。

この後、薪割り体験をして薪を燃やして作った焼き芋を食べました。先生も地元の人ということで、皆様しみをもって色々な話をしていました。



■ その他、エネルギーを考える公民館行事

ドラム缶風呂体験



ロケットストーブ作り



もちつきで薪利用



ピザ窯づくりと石窯ピザ体験



いずれの回も、今日は薪を使って行事をするが、

- ①これまではどうしていたか
- ②なぜ薪を使うのか
- ③この薪はどこから来たものか
- ④それを使うことで地域をどうしたいと考えているのか

を説明してから開始している。少しずつではあるが関心の高まりを感じる。

■ 取り組みの成果

消費者教育



- ・切り捨てられていた間伐材が資源だったという気付き
- ・自然と共にあるエネルギーへの理解とその循環
- ・体験を通し大人の背中を子どもに見せるという姿勢
- ・里山（地域）を大切に思う心
- ・大人も子どもも自分たちができることをやろうという意識

木質エネルギー



- ・薪利用とエネルギーの地産地消
- ・環境保全
- ・里山の再生活動

持続可能な地域の実現



- ・薪ストーブを導入する家や、久々に山に行く人が出てきた
- ・薪利用と結びついた体験プログラムの開発
- ・里山の魅力UP

■ 連携のポイント

① 対話の場を工夫(ワークショップ、ワールドカフェ、ファシリテーター)

② 色々な立場の人の参加を呼びかける

③ 消費者教育関係者・地域づくり団体等の専門家から情報やアドバイスをもらう

④ 新たに始める・創るのではなく、今あるものを繋ぐ・補い合う

⑤ 職員の日々の研鑽とアンテナを高くしておく

(地域・全国的な動き・人やイベント等)

⑥ 前年度からの根回し (特に对学校関係)

⑦ 学校との普段からの関係づくり 何でも相談してもらえる・できる関係



■ 今後の展開・課題 ～持続可能な地域づくりに向けて～

・課題

地域ぐるみで行う消費者教育活動の継続
中学校との関係づくり

・のと島クラシカ研究所(公民館も加入) を軌道に乗せる
能登島で体験プログラムを提供できる団体等を取りまとめ、
情報発信や協働事業を行う

- ➡ より大きな範囲、対象で活動が可能に
- ➡ 島内での薪の流通量UP
- ➡ 専従スタッフ配置により安定した活動

・地域づくり協議会(一部会の事務局が公民館)の事業にのせる

- ➡ 町会や観光協会、学校との連携強化
- ➡ より多くの参加者の確保
- ➡ 能登島型の木の駅プロジェクトの模索

能登島 地域づくり 協議会

ホーム
ブログ
活動紹介
お問い合わせ

のと島クラシカ研 究所

のと島クラシカ研
究所とは



能登島の新しい楽しみ方！ 「のと島クラシカ研究所（ラボ）」が開設されます！

のと島クラシカ研究所とは？

能登島の豊かな恵みから生まれた、能登島ならではの「暮らしかた」を楽しむながら学び、引き継いでいくことを目指した活動の場です。能登島の住民のみならず、能登島を訪れる皆さんにも気軽に能登島暮らしを体験してもらおうと開設しました。季節ごとにあたらしい能登島の暮らしを研究してまいります。

また、能登島を拠点に活動するさまざまなグループが能登島やラボなどの情報を集約・発信したり、皆さまへの発信と案内窓口としての役割も果たしていきます。



どこで？

能登島内海側にある空き施設、『のと島の里』（旧公民館施設）を活用、新たな交流拠点として開設をいたします。

どんなことを？

季節ごとに採れる旬の食材を扱い、島の薪を使って焼くピザづくり体験や、季節による自然を工夫して使って遊ぶ工作体験、さらには島の暮らしに関するさまざまな情報発信も実施いたします。